

1. ジャンパの設定

マクソン社 MR エンコーダなどの差動出力のエンコーダを使用する場合は、ジャンパピン JP1 (A 相), JP2 (B 相), JP3 (I 相) の D 側をクローズします。

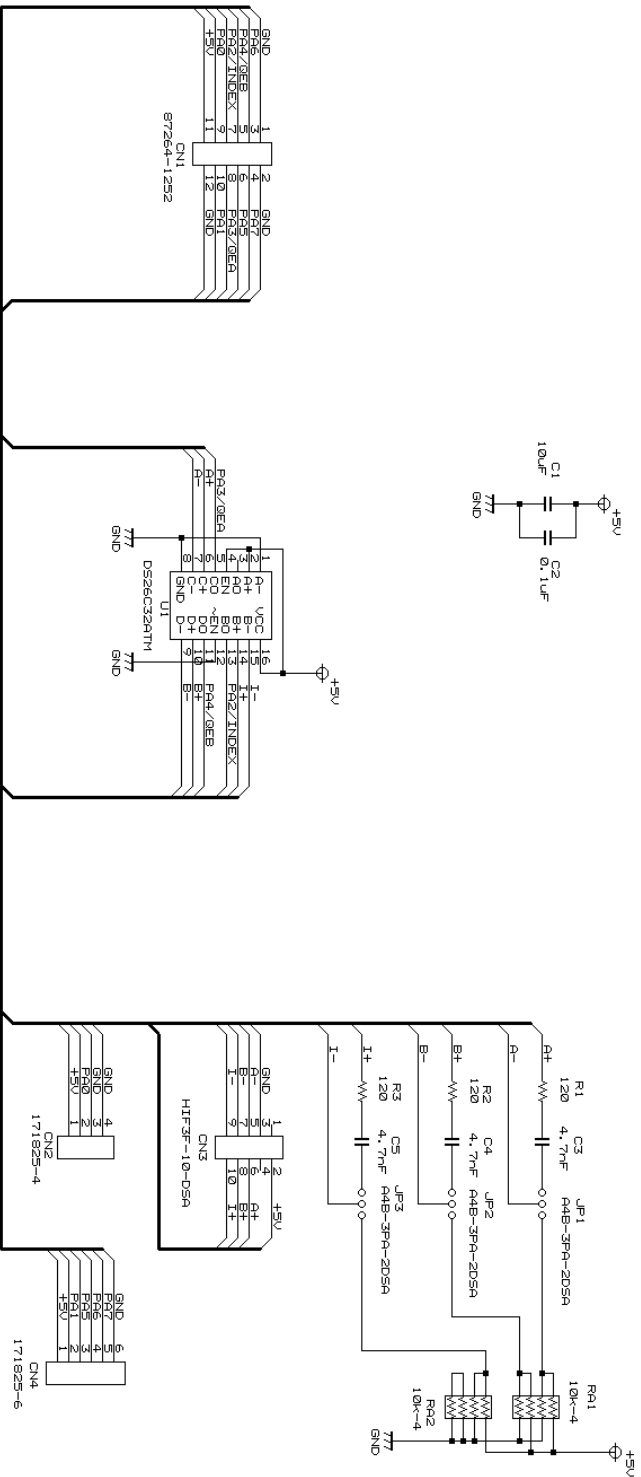
単相出力のエンコーダを使用する場合は、S 側をクローズします。D 側をクローズしたまま使用すると、エンコーダによっては過負荷により故障する可能性があるのでご注意ください。

2. キャパシタの容量

マクソン社 MR エンコーダでは、ケーブル長に対する差動入力キャパシタの容量を $C \geq 0.1 \text{ nF/m}$ を基準としています。FB-EN02 では、キャパシタ C3, C4, C5 の容量は 4.72nF で最大約 47m のケーブル長に対応します。より長いケーブルを使用する場合はキャパシタの交換が必要な場合があります。

また、エンコーダの種類によっては、キャパシタが不要なものもあります。この場合は、キャパシタ両端をショートする必要がありますが、ケーブル長が短い場合は、特に変更の必要はないと考えられます。

ケーブル長が長くノイズに対してシビアな使用条件の場合は、エンコーダのパルス波形を観測して、キャパシタ容量を適宜変更することをお勧めします。



Board ID 0

Title		Number	
DATK Encoder board		FB-EN02A	
ARCDEVICE		Size	Revision
			1
内容		2014/9/24	内海
		日付	担当
			備考

